

## 本年度の重点目標

- ・人としての成長を支援し、自立性を育むため、日常の生徒指導に努める。
- ・愛知高等学校と愛知高等養護学校の生徒が共に学び、共に励み、共に生きる心を育む。[ノーマライゼーション]
- ・愛知高等学校と愛知高等養護学校の教職員が一体となって、教育活動を推進する。[愛知高等学校と愛知高等養護学校の強みを活かす]
- ・地域・保護者等と共に学ぶ中で、愛知高等学校と愛知高等養護学校の教育活動に対する理解促進を図る。

領域	重点評価項目	中間評価(10月)	総合評価(3月)	
		自己評価	自己評価	学校関係者評価
1 学校経営	・学校は、生徒一人ひとりの個性を大切に、社会的職業的自立に向けた教育を推進している。	A	A	A
	・学校は、保護者等・関係機関・地域社会との連携の下、地域から信頼される学校づくりに努めている。	A	A	A
2 教育課程・学習指導	・学校は、計画的かつ系統的に授業を行っている。	A	A	A
	・学校は、生徒の特性を把握し、生徒にわかりやすい授業を目指し、日々授業の工夫や改善に取り組んでいる。	A	A	A
3 生徒指導	・学校は、個々の生徒の実態を的確に把握し、豊かな情操を養い、望ましい人間関係の醸成に努めている。	A	A	A
	・学校は、社会的自立を確立する生活習慣・生活態度を身につけさせるよう努めている。	A	A	B
	・学校は、いじめ防止基本方針、ストップ!いじめアクションプランに基づき、いじめのない学校づくりに努めている。	A	A	A
4 進路指導	・学校は、計画的な進路学習を進め、働くことの意義を考えさせその理解を深める指導をしている。	A	A	A
	・学校は、地域・関係機関等と連携し、生徒一人ひとりの適性に応じた進路指導を展開している。	A	A	A
5 保健・安全指導	・学校は、生徒が安心して過ごせる環境を整え、自主的に健康管理できるよう、支援と指導に努めている。	A	A	A
	・学校は、交通ルールや社会的規範が守れるようきめ細かい指導を行っている。	A	A	A
6 人権教育	・学校は、一人ひとりの個性が大切にされ、生き生きと過ごせるクラスづくりに努めている。	A	A	A
	・学校は、思いやりや協調性のある豊かな心を育て、人権感覚と自己肯定感を高め、豊かな人間性の育成に努めている。	A	A	A
7 環境教育	・学校は、自然環境・生活環境に関心をもち、ごみの減量化、節電・節水等環境に配慮した暮らし方を指導している。	B	B	B
	・学校は、ごみの分別や地域清掃活動を通じ、校内外のよりよい環境づくりの指導に努めている。	A	B	B
8 交流及び共同学習	・学校は、部活動や学校行事などをとおして、愛知高等学校の生徒との交流及び共同学習を積極的に進めている。	A	A	A
	・学校は、専門教科等を通じて積極的に地域との交流に努めている。	A	A	A
9 教職員の現職教育	・学校は、愛知高等学校と連携して様々な職員研修を実施し、教師としての資質向上に努めている。	A	A	A
	・学校は、特別支援教育に係る専門性を高める研修に努めている。	A	A	A
	・学校は、ICT活用指導力の向上に努めている。	A	A	A
10 センターの機能の発揮	・学校は、特別支援教育の啓発と推進のための情報発信に努めている。	A	A	A
	・学校は、特別支援教育コーディネーターを中心として、地域の要望に沿った本校の役割の遂行に努めている。	A	A	A
11 その他学校の取り組み	・学校は、生徒・職員が一致して、よりよい高等養護学校の校風づくりに努めている。	A	A	A
	・学校は、高等養護学校の教育実践を、県内の中学校・企業・関係機関等に発信している。	A	A	A

(注) ・評価については、A B C Dの4段階で示す。

・生徒指導の欄に、いじめの項目を入れること。また、教職員のICT活用指導力の向上、キャリア教育に関する項目について、任意の領域に含めること。

・自己評価：A B C Dの基準については、評価項目の内容が、十分に達成できた場合(達成度80%以上)はA、おおむね達成できた場合(達成度60%以上80%まで)はB、あまり達成できていない場合(達成度40%以上60%まで)はC、達成できていない場合(達成度40%未満)はDとする。ただし、アンケートの結果等を機械的にA B C Dの評価に置き換えるのではなく、学校の現状を真摯に分析・検討し、今後の学校改善につながるよう、適切に評価すること。